

授業科目名	周産期看護援助論	担当教員	◎下睦子、恵美須文枝、久保幸代、 岩谷香、夏村真奈巳、 ティエンティ・マイ、小出加代子
必修	開講年次：3年前期	単位：2単位	授業形態：演習 60時間

【授業概要】

新しい家族の誕生期にある人々の健康生活を看護するために必要な基礎的知識と技術を習得する。妊娠、分娩、産褥期の女性の体の変化や心理的反応、そして家族のニーズについて理解し、適切な看護介入について学ぶ。周産期各期の経過について理解し、適切な看護師の役割について考察する。また、周産期のハイリスク状態にある女性に対する適切な看護技術を修得する。

【授業目的・目標】

1. 新しい家族の誕生期にある人々の理解と必要な日常生活における基本的なセルフケアを維持促進するよう援助するための知識と技術を修得する。
2. 周産期の各期にある人々への看護について説明できる。
3. 周産期のハイリスク状態にある女性に対する適切な看護技術を修得する。

【履修条件】

「ウィメンズヘルス看護学概論」を修得していること

【授業計画】

[01] 妊娠に伴う母体の生理的变化とマイナートラブル	(久保)
[02] 妊娠に伴う母体の生理的变化とマイナートラブル	(久保)
[03] 胎児の発育とその生理	(久保)
[04] 妊婦の心理・社会的状態	(久保)
[05] ハイリスク妊娠	(久保)
[06] 妊婦のアセスメントと支援	(久保)
[07] 分娩の3要素	(下)
[08] 正常な分娩経過とメカニズム	(下)
[09] 産婦の心理・社会的状態と分娩時の看護	(下)
[10] 分娩時の異常と看護	(下)
[11] 産婦・胎児・家族のアセスメント	(下)
[12] 産婦・胎児・家族のアセスメント	(下)
[13] 妊婦健康診査技術 (演習)	(久保・岩谷・ティエンティ・小出)
[14] 分娩促進と産痛緩和支援 (演習)	(下・恵美須・夏村)
[15] 産褥期の退行性変化及び異常とその看護	(下)
[16] 産褥期の退行性変化及び異常とその看護	(下)
[17] 産褥期の進行性変化及び異常とその看護	(岩谷)
[18] 母乳育児支援	(岩谷)
[19] 褥婦とその家族の心理・社会的変化及び異常とその看護	(下)
[20] 退院後の育児支援	(下)
[21] 褥婦のアセスメント (演習)	(久保・恵美須)
[22] 褥婦の観察技術及び母乳育児支援 (演習)	(下・岩谷・夏村・ティエンティ・小出)
[23] 新生児の生理	(岩谷)
[24] 新生児の生理	(岩谷)
[25] 新生児の異常と看護	(岩谷)
[26] 新生児の異常と看護	(岩谷)
[27] 新生児のアセスメントと支援	(岩谷)
[28] 新生児のアセスメントと支援	(岩谷)
[29] 新生児のフィジカルアセスメント (演習)	(恵美須・岩谷)
[30] 新生児の日常生活支援 (演習)	(下・久保・夏村・ティエンティ・小出)

【教科書】

森恵美著他 (2016) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学各論, 医学書院.

【参考書】

1. 村本淳子編著他 (2009) 母性看護学1 妊娠・分娩, 医歯薬出版株式会社
2. 今津ひとみ編著他 (2011) 母性看護学2 産褥・新生児, 医歯薬出版株式会社
3. 新道幸恵編集他 (2012) 新体系 看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護, メヂカルフレンド社
4. 大平光子編集他 (2014) 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル, 南江堂

【評価方法・評価基準】

テスト (60%)、演習レポート (30%)、講義・演習への参加態度 (10%) 評価基準の詳細については別途示す。

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題の学習を行うこと。
事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習、課題の記述を行うこと。

【教育目標 (必須要素) との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは記述内容を評価し、返却する。試験については、解答を示しフィードバックを行う。

【備考】

ウィメンズヘルス看護学概論、ウィメンズヘルス看護学実習と関連が深い。特に、ウィメンズヘルス看護学実習に向け、妊産褥婦・新生児とその家族について理解を深め、アセスメント能力と看護実践能力つながる知識・技術習得の学習を主体的に行うこと。